

免許外担任制度の在り方に関する調査研究協力者会議 資料

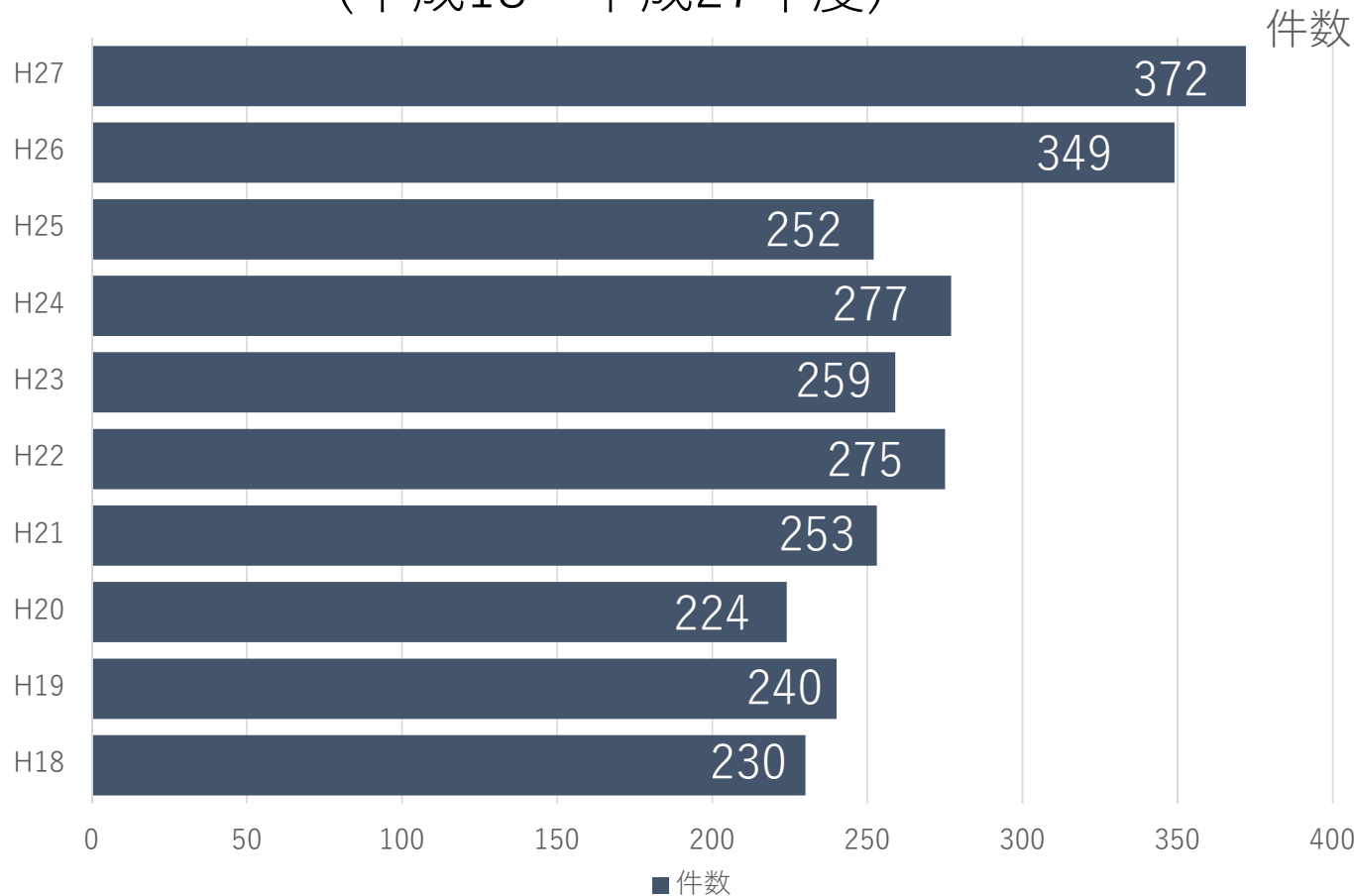
# 千葉県の免許外教科教授担任の現状と取組について

平成30年3月22日（木）

千葉県教育庁教育振興部 教職員課 任用室 日根野達也

# 千葉県の免外の状況

○免許外教科教授担任の許可件数  
(平成18～平成27年度)



平成25年度までは230件～  
280件で推移していた。

**臨時免許状授与の改善**

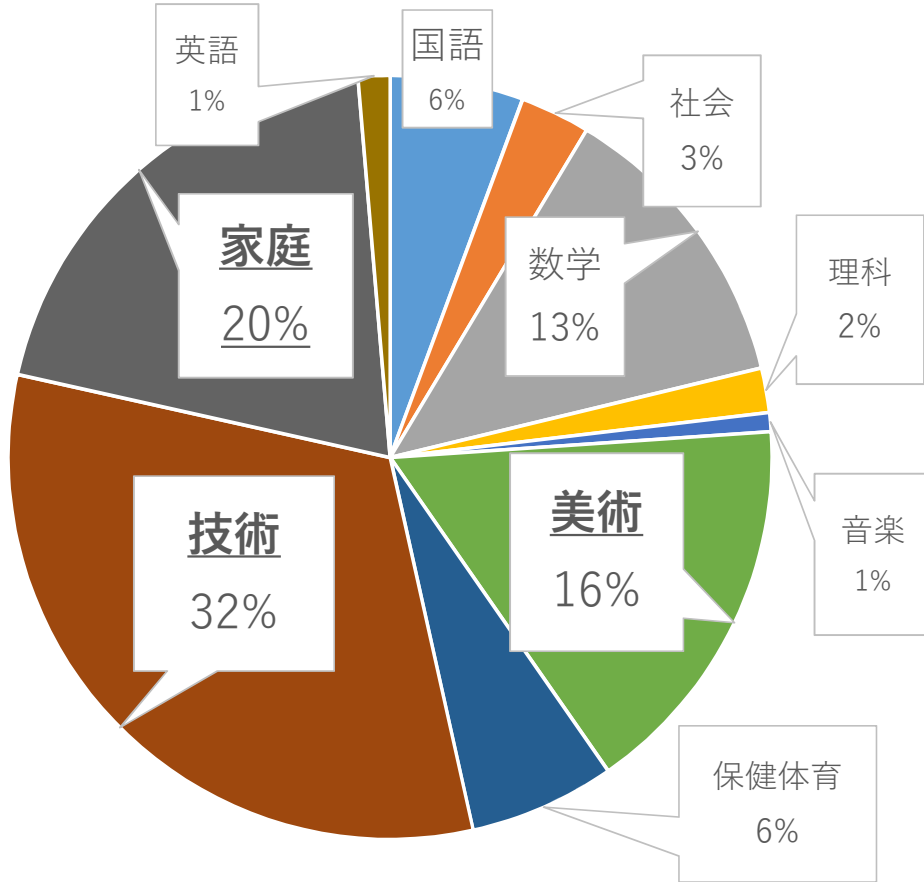
平成26年度に100件増となる。

**免外許可基準の見直し**

平成28年度は減少傾向

# 千葉県の実外ノ状況

○教科別授与件数ノ割合  
(平成27年度)



**技術、家庭、美術が多い（併せて68%）**

上記3教科ノ占める割合は毎年微増中

原因

- ・小規模校における授業時数ノアンバランスさ。
- ・中・大規模校における教科バランスに依じた配置ノ難しさ
- ・当該免許状所持者ノ少なさ  
(免許状ヲ取得できる大学が少ない)

## 免外の削減に向けた県の取組

### ○人事配置での工夫・・・非常勤講師の配置

中学校教科担任講師 平成28年度 109校に115名



一定規模以下の中学校の免外を解消し、円滑な学校運営及び教科指導の改善を図るため、実情を勘案し、配置する。

### ○免許取得の工夫・・・免許法認定講習会の開催

千葉大学と連携し、中学校教諭免許状「技術」を4年間で取得できるように。

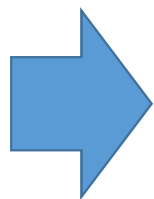


文科省「現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」活用  
第1期 平成26年～29年 16 / 20名 取得  
第2期 平成30年～33年 20名定員  
→小規模中学校の必要な教科に配置

## 免外の削減に向けた県の取組

○教員採用選考での工夫・・・中学校複数教科免許所有者を特別枠で選考

増加する小規模校等で、授業時数の少ない教科についても、専門的な資格・知識を持った教員を適正に配置できるように新設した。



### 対象及び条件

中学校（技術・家庭・美術）のいずれか1つの免許状とそれ以外の教科の免許状を有する者

平成29年度実施

・志願者26名

・合格者**16**名

（内訳

**技術7名、美術3名、家庭2名、  
保健体育2名、数学1名、音楽1名**）

→採用後は、学校の状況に応じて、複数の教科を担当する。

# 大学の養成課程に期待すること

千葉県・千葉市が求める教員像

千葉県・千葉市教員等育成指標より（H30.4～）

- 人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教員
- 高い倫理観をもち、心身ともに健康で、明朗、快活な教員
- 幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教員
- 幼児児童生徒の成長と発達を理解し、悩みや思いを受け止め、支援できる教員
- 組織の一員としての責任感と協調性を持ち、互いに高め合う教員

教員養成大学に期待すること

- 小学校教員養成→英語の指導力向上
- 中学校教員養成→複数免許状の取得
- 高等学校教員養成→道徳指導の基礎
- 全ての教員養成→人間性を豊かにするためのインターンシップの実施
- 免許法認定講習の実施に対する支援

# 千葉大学出身者の状況

千葉大学で複数免許を取得し、県内の公立中学校で勤務している教員

(平成27年～29年の3年間)

	採用者 A	複数教科 担当 B	割合 B / A	経験年数等
平成27年 3年目	20人	5人	25%	3年目
平成28年 2年目	20人	8人	40%	2年目
平成29年 初任者	8人	0人	0%	初任者 (条件付)
計	48人	13人	<u>27%</u>	

- ・ 2年目以降に複数教科担任を依頼されている。
- ・ 教科については、複数教科枠選考は平成29年度より適用。
- ・ 8名中、複数教科枠での採用者は3名。

# 千葉大学出身者の状況

## 配置校の校長からの聞き取り

### ○複数教科を担当した教諭の様子

- 「問題なくやっている。」「複数教科を担当することで指導の幅が広がる。」
- 「準備が大変そうだ。」「本人の資質による。」等

### ○複数教科を所有していても、実際には2教科担当していない割合が高い。

- 「主免許の教科指導力向上を優先」「学級経営に集中させたい」
- 学校規模や教科に依存すると共に、若年層教員の負担過多とならぬように配慮

### ○副免許の教科指導力、専門性に不安があるか

- 指導力の不安・不満を訴える声はない。
- 大学でのきめ細かな指導とOJTによるサポートが機能している。

### ○千葉大学が第2免許制度を推進していることに対して

- 「大変ありがたい。」「ぜひ継続して頂きたい。」「来年は活用する。」(48/48 100%肯定)



## 千葉大学の取組に対して

### ○養成課程で複数教科の免許状を取得させる取組に対して

- ・ 県教委・市教委との協議を受け、千葉大学が第2免許制度を導入したことにより、複数教科の免許取得者が多数輩出されている。
- ・ 教員採用選考の複数教科枠も、千葉大学の第2免許制度に支えられている。合格者の半数以上が千葉大学出身者である。
- ・ 採用された教員が複数の免許状を取得していたとしても、配置された学校の規模や本人の主免許教科の経験を積ませることを重視するなど、2教科を担当するには至らない現状もある。しかし、管理職として千葉大学の取り組みに大いに感謝している。
- ・ 特に、免許状取得者の少ない技術、家庭、美術の取得を促進していただきたい。

### ○認定講習の実施に対して

- ・ 免許状保有者の少ない中学校「技術」について、千葉大学との連携により16名の現職教諭が免許状を取得できた。
- ・ 平成30年から、第2期の認定講習が予定されており、臨免・免外削減の大きな力となると考えている。